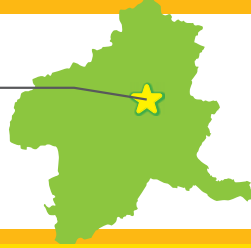


農業と観光の二本柱で村の活性化を図る

昭和村



昭和村ボランティアガイドの会

「群馬の純情畑」をキャッチコピーとして農業地域で有名な昭和村が、観光面に力を入れ始めた。6年前にボランティアガイドの会が結成され、シニアたちが村を盛り上げている。



メンバーの活躍に、ぐんまちゃんも駆け付けた



鍛屋地(かじやち)古墳を説明するボランティアガイド

●活動内容

10年ほど前までは、村の歴史や文化などについて、村民でもよく知らない状態であった。そこで平成21年、村民はもちろん村外の方にも村の魅力を紹介し、関心を高めてもらうために、7名の会員でこの会を発足した。現在は2名増えて9名になり、昭和村を盛り上げるべく、案内や講座、広報誌の執筆にあたっている。

まず、史跡めぐりコースを設定しての村案内。村の歴史風土、史跡等を紹介していく。毎年、村に新しく赴任した教員を対象とした案内をしている。教員を介し、新たな世代に村の歴史が伝えられていく。村や道の駅、商工会などが主催する講座でも案内している。もちろん、知識を得る勉強も欠かさない。

また、村の広報誌のコーナーの一つである「昭和村の歴史を訪ねて」を執筆している。村の歴史を知ることができると、若い世代にも好評だ。

さらに、4月29日の「昭和の日」には、道の駅めぐりーむと連携し、昔の遊びを子どもたちに教えている。

●事業を始めたきっかけ

平成20年頃、多くの市町村で、ボランティアガイドによる地域の歴史や史跡を案内する団体が、組織され始めていた。その頃、昭和村は「日本で最も美しい村」連合に加盟。当時昭和村の村長であった加藤秀光さんも「ボランティアガイド」の組織化を考え、役場を定年退職していた現事務局長の島田民夫さん(69)に相談。

「農業は知られているが、観光面では弱いこの村をどう紹介するのか」と、ためらいを感じていた島田さん。しかし、「群馬歴史散歩の会沼田支部」の行事で訪れたある地域で、シニアが生き生きと地元を紹介している姿を目の当たりにした。「昭和村にも地元の歴史や文化を紹介したい人がいるはずだ」との思いを強くし、ボランティアガイドの会の創設を決意する。

すでに観光ガイドの組織があった沼田市の商工会に出向いて資料をもらい、指導を仰ぎながら、会則や活動方針を作成。島田さんの熱意に賛同した7名とともに役員企画課、教育委員会の協力のもと、同会を発足した。



昭和村は「日本で最も美しい村」連合に加盟



歴史を伝える講座は人気が高い

●工夫している点・特長

地元はもとより、全国に昭和村の良さを発信していきたいと願っていたシニアの有志が、観光ボランティアガイドとして結成。昭和村の歴史、史跡、文化が、世代を超えて徐々に浸透しつつある。

行政と連携した「ふるさと歴史文化講座」の開催、お土産の新商品の開発など、発足から6年経った現在も、お互いにアイデアを持ち寄り、今でも勉強を怠らない会員の知識と経験がそこには詰まっている。そんな彼らの活躍を目にした商工会が、会員に対して事業への協力を要請。ますますシニアたちの活躍の場が増え

てきている。

また、「日本で最も美しい村」連合に加盟し、生産量日本一のこんにゃく芋をはじめとした野菜王国である昭和村。その担い手は60歳を超えたシニア層が中心だ。彼らは野菜作りに関して誇りを持ち、まだまだ体も丈夫で元気一杯。昭和村を支える「大きな幹」である。

この「野菜作り」と「観光案内」を二本の柱にして、村を活性化しようと、シニアたちは日々奮闘している。



〈やりがい・楽しみ〉

「活動を続けてきたことで、参加者の笑顔に直接触れられることがやりがい」というのが、会員たちの意見だ。また、昨年テレビでガイドの会と村内の史跡を取り上げた番組が放送されたことで、会員たちの士気はますます高まっている。

「現在の輪が、より大きな輪になるように努め、豊かで美しい昭和村を目指していきたい。また地道に活動をしていくことで、今以上に人々の笑顔が見られるようにがんばりたい」と、島田さんは話してくれた。

基礎データ

☎0278-24-5111

昭和村企画課

事業開始時期/
平成21年

主な活動/
村内の文化財、歴史風土、史跡などの案内講演会の実施
広報誌の執筆など

人数・年齢/
9名 60~80代

実施主体/
昭和村ボランティアガイドの会